どんぐりの森通信　第15号　2008年6月

あっという間に緑の濃い季節となりました。今年は春が早くて、桜はもちろんのこと、フクジュソウやカタクリ、イチゲなど早春の花々は例年より半月近くも早く咲いて、さっさと姿を消してしまいました。まさにスプリング・エフェメラルでしたね。平岡のアオサギたちも早めに巣作りを始め、順調に子育てを進めているようです。平岡公園では、すでにトンボも姿を見せてさわやかな初夏の風が吹きはじめました。

半年ぶりの『どんぐりの森通信』第 15 号では、08 年前半の活動報告と今後の活動予定、そしてこれからの課題についてお伝えしたいと思います。

❖❖❖　０８年１月～３月の活動から　❖❖❖

◆1 月 19 日（土）冬の平岡公園にぎわいフェスタ（参加者・スタッフ 50 名）

昨年試作したスノーキャンドルが好評だったので、今年はたくさん作って噴水広場をキャンドルの輝きで照らしてみようと計画しました。

バケツとスコップを使って固めた雪のかまくらに、小さな窓を開けて中の灯りが見えるようにします。丸や三角、ハート型など好きな形に雪をくりぬくのが、ちょっと難しいけど面白い。平岡公園管理事務所の皆さんが除雪して下さったスペースに、出来上がったスノーキャンドルが次々と並べられていきます。

もっと作りたい！という声も上がりましたが、ひとまず休憩、明るいうちに雪の森探検に出発です。清田区役所が用意して下さった子供用のスノーシューが大活躍でした。管理事務所特製のホカホカおしるこも大好評！暗くなるのを待ってローソクに火を灯すと、揺れる炎に雪が輝いて、なかなか素敵な光景でした。

◆ 2 月 20 日（水）お楽しみ　冬の森散策（野幌森林公園トド山口）

素晴らしい晴天に恵まれ、明るい森の中をスノーシューでのんびり歩きました。ところどころにウサギの足跡と丸いフンが点々と・・・足跡はどちらの方向に向かっているのか、ウサギの跳び方を真似して（？）考えてみます。それにしても、ひとっ跳びの幅が長いこと！よっぽど急いでいたのでしょうか。頭上では早くもさえずりを聞かせる鳥達の声、トドマツの幹を飾るツルアジサイのドライフラワー。

参加者 8 名で森の散策をゆっくり楽しみました。

◆ 2 月 23 日（土）　ながぐつの土曜日　冬の森たんけんたい（平岡公園）

降りしきる雪の中で参加者も少なかったのですが、森を一周して戻ると、初めて参加する学童保育の子供たちのグループか参集。雪でバスが遅れたそうで、初めてのスノーシュー体験を楽しみにして来たとのことなので、もう一度森に入ることにしました。元気な子供たちの声で、森はたちまち賑やかになります。

樹木に貼り付いた去年のセミのぬけがらを見つけたり、カラマツの松ぼっくりを拾い集めたり、吹きだまりで転んで雪だらけになっても笑顔の、元気な子供たちでした。

◆3月9日（土）クマゲラ調査に参加（野幌森林公園）

毎年この季節におこなわれる野幌森林公園のクマゲラ調査に、どんぐりの森から5名で参加しました。平岡公園でも食痕が見つかっているクマゲラですが、なかなか姿を見る機会はありません。朝から良い天気に恵まれて、「運が良ければ赤いベレー帽のクマゲラに会えるかも」「声だけでも聞きたいね」と期待がふくらみます。開拓記念館で調査方法やクマゲラの生態について説明を受けてから、トド山口近くの担当区域に向かいました。クマゲラの姿は目撃できませんでしたが、大きな新しい食痕（クマゲラが採餌をした跡）を幾つも見つけました。雪の上には大きな木片がちらばっていて、ダイナミックに木をつつくクマゲラの姿が想像できます。いつか平岡公園で出会える日が来るといいですね。

◆3月19日（水）スノーシューハイク（東部緑地）

早春の日差しがまぶしく、汗ばむぐらいの陽気です。東部緑地の大曲橋上流部をスノーシューで歩いてみました。

夏には下草や茂みで入りにくい場所も、積雪期なら奥まで入って行けます。大曲川が大きく蛇行している所まで行くと、川岸の開けたところに***オオウバユリ***の群生があり、雪をかぶった実がきれいでした。おなじみの***オオカメノキ***の冬芽はまだ固いものの、丸い花芽は数が多くて春が楽しみです。愛らしい姿でファンの多い***シマエナガ***の群れも姿を見せてくれました。

雪解けがどんどんすすみ、スノーシューで歩くのもこの冬最後になった一日でした。

❖❖❖　０８年４月～５月の活動から　❖❖❖

◆4月12日（土）　ながぐつの土曜日　（飛び出せ！春の森たんけんたい）

気温が下がり小雨の降る寒い日になりましたが、元気な子供たちがたくさん集まり、参加者 42 名、スタッフ 23 名という大部隊になりました。皆で春を見つけよう！と出発。ほとんど雪が溶けた木道脇では今日のハイライト、***エゾアカガエル***の卵がたくさん見つかりました。***エゾサンショウウオ***の卵も！ゼリー状の卵塊をそっと手に乗せてみた子供たちはニッコリ。

半分水につかって隠れているエゾアカガエルもいました。昼間池の周囲にいるのはたいていオスで、産卵に来るメスを待っているのだそうです。今日は酪農大学の先生や学生さん達が参加して下さったので、子供たちがぷるんぷるんの卵に夢中になっている傍で、大人はカエルの生態について専門的なお話も聞けました。

湿地では***ミズバショウ***、***ザゼンソウ***が花盛り、人工湿地に移植した***エゾノリュウキンカ***も鮮やかな黄色の花を咲かせていました。

草むらでは***トドマツ***の倒木が腐食して、中にたくさんの虫が潜んでいるのを見つけました。虫博士のお兄さん（学生さん）がさっそく登場、***シデムシ***と教えてくれます。樹皮の間にたくさんの虫が隠れていて、「ここは虫の団地だね」という声に皆な賛同。上空には***アオサギ***が飛ぶ姿も時々見られました。今年は子育ても急ピッチで進んでいるようです。

◆5 月 10 日（土）ながぐつの土曜日　（トノサマガエルの卵が…？）

平岡公園の湿地周辺に見慣れない大きなカエルが姿を見せるようになって数年、卵の数も年々増えています。今日の湿地では、先月見たエゾアカガエルの卵はほとんどおたまじゃくしになっていましたが、替わりに***トノサマガエル***の卵があちこちに大きな塊になっていました。エゾアカガエルより一回りも大きいトノサマガエルが増えていくと、北海道本来のカエルたちはどうなってしまうの？

人間が持ち込んだものだけに、難しい問題です。カエルに限らずカメや魚など、ペットとして飼っていた動物を放すことが自然環境に大きな影響をもたらすということを、子供たちと一緒に考えていきたいと思いました。

◆5 月 14日（水）平岡公園ツリーウオッチング

５年目になった平岡公園ツリーウオッチング。毎月 1 回の観察会を楽しみに集まってくださる方が増えてきました。今年も春の芽吹きを迎えた平岡公園でスタートです。

入口の梅の香橋から見ると、森の若葉がこの季節ならではの微妙な色合いに染め分けられているのがよく分かります。***ベニイタヤ***の赤、***エゾイタヤ***の黄色、**コナラ**のいぶし銀のような緑、などなど。

まさに「春紅葉」です。

カエデの仲間は今が花盛り、橋の上からは手の届く高さで樹木の花が見られるので、***イタヤカエデ***の黄色の花、***ハウチワカエデ***の赤い花をじっくり観察。

木道上では***トガリネズミ***の死骸を発見！その名のとおり尖った鼻、でもネズミというよりモグラの印象だね、と感想は様々です。喧しく鳴く***コムクドリ***が森の方へ飛んでいきました。

アオサギ観察会　平岡コロニー（イオン・ショッピングセンター裏の森）

平岡イオンショッピングセンター裏の森に、毎年多数のアオサギが飛来し、コロニー（集団営巣地）をつくって子育てをしています。

私たちは 2000 年から平岡高校のご協力をいただき、松長さん（北海道アオサギ研究会代表）と共に学校の屋上からコロニーを観察し、アオサギが子育てできる大切な自然環境を見守っています。今年は3月6日に初飛来10羽を確認し、その後、続々とアオサギたちが集まって子育て中です。

◆4月 23 日　第 1 回観察会　　カラマツ林の上方で抱卵しているアオサギの姿を初めて見た参加者も多く、巣の数の多さに驚きの声があがりました。双眼鏡で約 60 個の巣を確認。野生生物に関心がある酪農大学の学生さんが大勢参加、松長さんの話を熱心に聞いていました。望遠鏡をのぞく参加者の多さにアオサギもびっくりの観察会になりました。

◆5 月 21 日　第 2 回観察会　巣の中には小さなヒナもいましたが、親鳥と同じくらいに大きくなったヒナが目立ちました。親鳥は餌を取りに行くのに大忙しです。親鳥がいない巣の近くでは、カラスが卵やヒナを狙っていました。

◆6 月 20 日（予定）　第 3 回観察会

観察会の後、北海道アオサギ研究会代表の松長克利さんの講演会「アオサギの世界 in 北海道」を開催します。

平岡公園ボランティア活動

『平岡どんぐりの森』は公園ボランティア団体として登録し、主に湿地作り、除草作業に協力しています。また公園事務所と共催で、夏・冬のにぎわいフェスタや観察会などを行っています。

◆3 月 26 日　***はらっぱ会議***

本年度の活動や公園内の湿地で増加している外来生物「トノサマガエル」の問題について話し合いました。今年は酪農大学の吉田先生や学生さんと共にエゾアカガエル、トノサマガエルの繁殖状況等の調査を行っています。
通信に寄稿していただいた吉田先生からのメッセージ「トノサマガエルが増えてきた！」を是非お読み下さい。

◆8 月 2 日に第 11 回***平岡公園にぎわいフェスタ***　を開催予定、ご期待ください！

地域の森づくり　（樹木生育調査）

生態学的混播法での森づくりを始めてから10年近くがたちました。初期に植樹した場所では、大きく育った樹木も見られます。 混播法では 1 ヶ所に同時に植えた 10 種の苗木のうち、自然淘汰によって選択された 1 種が成長して将来の森を形成すると予測されています。現在はその選択過程にあるわけですが、周囲の環境変化もあり、現状を把握するために樹木の生育状況を調べまた。

◆　**開の森**（札幌新道・厚別競技場入り口横）

1999 年 11 月 3 日　「みんなの森づくり」で植樹（30 サークル）

2008 年 5 月 21 日　簡単な樹木生育調査（樹種、樹高を測定）

コナラ、ハンノキ、ケヤマハンノキ、シラカンバ、イヌエンジュ、ヒメヤシャブシなどの樹種が大きく成長していました。アオダモ、ハルニレ、キタコブシ,エゾマツなどは、樹高は高くないものの、高木の下で育っています。植樹した場所のすぐ後ろには自然林が残っており、そこから落ちた種子が生育したのか、コナラ、シラカンバ、イヌエンジュ、ヤナギ類がサークル内外に多数成長しているのが目に付きました。

◆　**拓の森**（厚別中央通と札幌新道の交差点・平岡公園第 4 駐車場側）

1998 年 10 月 18 日　「第 1 回平岡公園にぎわいフェスタ」で植樹（50 サークル）

2006 年　5 月 31 日　簡単な樹木生育調査（樹種、樹高を測定）

2 年前の調査。「開の森」と同様に平地で日当たりが良い場所なので、10 種植えた苗の6割くらいは生育が良好。シラカンバ、ハンノキ類、エゾノバッコヤナギ、コナラの成長が早く、ハルニレ、アオダモ、キタコブシ、ナナカマド、エゾヤマザクラ、アカイタヤなども育っています。外来種のニセアカシアの増加が著しいので、札幌市にお願いして一部を伐採しました。

◆　平岡公園内など他の区域も順次調査する予定です。

トノサマガエルが増えてきた！

酪農学園大学　環境システム学部　生命環境学科
野生動物保護管理学研究室　　吉田剛司　（文と写真）

皆さんは北海道に何種類のカエルが生息しているか、ご存知でしょうか？実は北海道には7種類のカエルが確認されています。その内訳は、エゾアカガエル、ニホンアマガエル、トノサマガエル、ツチガエル、トウキョウダルマガエル、アズマヒキガエル、ウシガエルとなっています。このうち北海道の在来種、すなわち道内に自然に分布しているカエルは2種類で、エゾアカガエルとニホンアマガエルのみです。ウシガエルはアメリカ原産の外来種であり、その他のカエルは本州から人為的に持ち込まれたもので、これらも外来種です。平岡公園の豊かな自然を守っていくためには、これら外来カエル問題は大きな課題となりそうです。

去年の 5 月に札幌に転勤してきて、すぐに平岡公園に訪れた際に愕然としました。湿地内に生息するトノサマガエルの個体数が驚くほどに多かったからです。もともと本州にのみ生息するはずのトノサマガエルが、誰かによって放されて札幌や北広島に分布していることは以前より知っていましたが、ここまで密度が高いとは思ってもいませんでした。野生動物を野外で調査研究する際に、最近はこのような外来種問題について悩まされることが非常に多くなってきています。

小学生がカエルを見つけて楽しそうに公園で笑っている！カエルの合唱を聞きながら公園内を散策する！一見すればほほ笑ましい風景ですが、そのカエルがトノサマガエルで、公園が札幌市内にあれば、どう考えても可笑しな風景となります。トノサマガエルは、本州に広く分布するカエルで、体長が 50~95mm と比較的大型なカエルです。オスは繁殖期に縄張りを作り、盛んにメスに存在をアピールしています。平岡公園では、5 月から 6 月にかけてトノサマガエルの繁殖期となり、大きな鳴声と共に、たくさんの卵やオタマジャクシを見かけることになります。

平岡公園は、これ以上のトノサマガエルの分布を広げずに、エゾアカガエルが、そして平岡公園では最近は分布の少ないアマガエルを観察でききる場であると考えます。そこで酪農学園大学では、平岡ドングリの森にサポートしていただきながら、公園事務所と共に、卵塊を人工湿地から取り除くなどの作業を行っています。既に増えすぎつつあるトノサマガエルをコントロールすることは大事なことで、研究室の学生と共に、地道に作業は続けていきます。ただし本当に重要なことは、「トノサマガエルは本州のカエルで、北海道にとっては外来種であること」をより多くの市民の皆様に理解してもらうことだと思います。

「ドングリの森のながぐつの土曜日」に参加させていただき、探検隊長ユウさんと共に、平岡公園のカエルについて、子供たちと一緒に観察してカエルについて考える時間を頂き、次の世代に札幌でトノサマガエルを増やさないようにメッセージを送りつつ、自然に親しむ活動の重要性の再認識ができました。学生と一緒に、これからも平岡公園に通い詰めて、トノサマガエルの動向を調査しながら、野生動物の保全や管理において、実は最も重要なテーマである子供たちへの普及啓発という難しい課題について、ドングリの森の皆さんにご指導を頂きながら、着実に前に一歩づつ進んでいくような活動を広げていきたいと願っています。

札幌市に要望書を提出・・・水辺の生きものを見守ろう

エゾサンショウウオやニホンザリガニが多数生息する札幌新道脇の湿地に住宅地開発計画が浮上しました。隣接するエゾホトケドジョウの池にも大きな影響を与える開発計画です。平岡どんぐりの森は 3 月 6 日に、開発にあたっては貴重な水辺の生き物の生息環境を最大限守ってほしいという趣旨の要望書を札幌市長宛に提出しました。引き続き開発計画の推移に注目したいと思います。

発行　平岡どんぐりの森　（代表　荒井美和子）
〒004-0033　札幌市厚別区上野幌 3 条 5 丁目12－8
tel. fax　011－896－0058
http://dongurinomori.web.fc2.com/

ホームページ開設しました！上記のアドレスです。のぞいて見てご意見をお寄せ下さい！